6. 陸上昆虫類等調査結果の概要

6. 陸上昆虫類等調査結果の概要

(1) 分布状況からみた河川環境の特徴

今回とりまとめを行った 28 水系 30 河川で確認された陸上昆虫類等は、24 目 468 科 5,960 種でした。確認種数が多かった河川は、中部地方の安部川で 1,622 種、次いで東北地方の鳴瀬川で 1,429 種、中国地方の天神川で 1,331 種等でした。

(2) 特定種一覧 (資料 II.6.1)

今回とりまとめを行った 30 河川で確認された特定種は、環境省（庁）のレッドリストで絶滅危惧 I 類に指定されているコガタノゲンゴロウ等 40 種でした。特定種の確認種数が多かった河川は、東北地方の岩木川の 7 種、北海道地方の鵡川、近畿地方の揖保川、中国地方の小瀬川、九州地方の筑後川の 5 種でした。確認河川数が多かった種は、環境省（庁）のレッドリストで絶滅危惧 II 類に分類されるグンバイトンボ、準絶滅危惧に分類されるシロヘリツチカメムシの 6 河川、次いで準絶滅危惧のワスレナグモの 5 河川でした。

（注）特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種
- 環境省（庁）編「レッドリスト」掲載種（2000）

(3) 外来種一覧 (資料 II.6.2)

今回とりまとめを行った 30 河川で確認された外来種は、8 目 25 科 42 種でした。外来種の確認種数が多かった河川は、九州地方の筑後川の 17 種、次いで中部地方の木曽川水系揖斐川の 15 種、四国地方の土器川、肱川の 14 種でした。外来種の全く確認されなかった河川はありませんでしたが、地方別では北海道地方の 3 種の確認が最も少ない結果でした。

（注）外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I.6（49～50 ページ）および 51 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。

(4) ゲンジボタルとヘイケボタルの確認された地域 (資料 II.6.3 (1)、(2))

確認状況の概要は 17 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 158～159 ページに掲載されています。

(5) オオムラサキの確認された地域 (資料 II.6.3 (3))

確認状況の概要は 18 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 160 ページに掲載されています。

(6) コオイムシ、オオコオイムシの確認された地域 (資料 II.6.3 (4)、(5))

確認状況の概要は 18 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 161～162 ページに掲載されています。

(7) 水際に生息する種（ミズギワカメムシ類： モンキツヤミズギワカメムシ、ウスイロミズギワカメムシ、エゾミズギワカメムシ、ミズギワカメムシ、Saldula 属の一種）の確認された地域 （資料 II.6.3 (6)）

確認状況の概要は 19 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 163 ページに掲載されています。

(8) アオマツムシ、ブタクサハムシの確認された地域 （資料 II.6.3 (7)、(8)）

確認状況の概要は 28 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 164～165 ページに掲載されています。

(9) 分析対象種の確認状況の経年比較 （資料 II.6.4）

これら選定項目の河川ごとの経年確認状況についての比較表は 166 ページに掲載されています。